

葦 森 の 風

2学期のスタートにあたって

今年の猛暑や豪雨災害は、「かつて経験のないような・・・」等の表現が用いられることが多く、これまでの予測があてにならない状況が起こっていました。幸い足守中学校では、心配するような被害は起こってなくて、安心してるところです。夏休み中もいろいろと子どもたちに声をかけていただきありがとうございます。さて、夏休み中、3年生は、夏季講習に頑張った生徒や部活動に最後まで汗を流した生徒。また、ボランティアや地域学習の準備に活躍した生徒などそれぞれに充実した毎日を送ってくれたことと思います。2学期は、文化祭が最初の大きな学校行事です。3年生の活躍を何より期待しています。

夏休みの記録

山陽新聞 8月21日 13面
足守中の現在のようすをうまく説明してくれました。ホームページにもアップしていますので、ご覧ください。

ボランティアのようす
科学部・足守公民館
第二すみれ保育園



「我慢について」

足守中学校地域協働学校運営協議会 会長 後藤 晴美

先日、30年振りに逢った、かつての教え子と話した時のことです。その話の中で、私がその当時教訓として話したらしい「言葉」が、強く印象に残っているというのです。

それは、「人の気持ちは、楽な方へ流れやすい、それを堰きとめるのは、我慢という堤防である。」というものです。その時には、我慢すること、耐えることの大切さを話したのでしょう。

その君は、若い頃製パンの修行のためパリに行っております。辛抱した結果、現在パン工房を経営し、社長として社員数名と頑張っています。

その修行の過程で、つらい時や苦しい時に、ふとその言葉を思い出してくれたのかも知れません。そんな些細なことを覚えてくれていたということに、感動を覚えました。

そこで、この我慢ということについて、考えてみたいと思います。

今の子どもたちは、「我慢する気持ち」が弱いと言われています。何かをやろうと始めても、ちょっと躓いたり、難しかったりしたら、すぐ諦めたり投げ出したりしがちです。その些細な壁を乗り越えて、やり抜こうという達成意欲に欠けるといえます。

今の世の中は、すべてが豊かで便利になり、欲しい物や必要なものは、お金さえ出せばなんの苦勞もなく、すぐ手に入ります。したがって自分で作ったり、工夫したりする必要がありません。

今は、日常生活の中でなんとなく過ごしていると、我慢する場面はあまりありません。

せいぜい、勉強ぐらいが、我慢する場といえるのではないのでしょうか。そもそもこの勉強という言葉は、中国語で「励ますとか、無理強いする」という意味で、転じて精をだして学問する、ということになったそうです。

生活の中で意識して、「我慢する、耐える」という場をいかに作り、それを乗り越えていける、強い精神力を育てていくか、大きな課題と言えるでしょう。

